

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

# ma·navi

生涯学習とっとり  
vol.  
182  
2019.5  
鳥取県生涯学習情報誌



「もちがせ週末住人の家」に滞在中の学生と「もちがせ週末住人」共同代表の岩田直樹さん（右から2人目）

特集

## 「ただいま」といえるまちを 創る！

もちがせ週末住人

- 04 私たちの活動をご紹介します！  
皿回しグループ 寿一座(倉吉市)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報  
(5・6月)  
とっとり県民カレッジで熱心に学ばれた  
皆さんを紹介します
- 23 平成31年度  
とっとり県民カレッジ講座(特別講座)  
地域を学び 地域で活かす
- 25 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 27 みてみて♪こんなしとるで～

公立鳥取環境大学の  
4年生です！

一番大切にしているのは、地域の視点にたつこと。自分たちは「住人」だということ。だからこそ「週末住人」という名前にしました。田舎の人と人のつながりが、僕たちの世代にとっていろんなチャレンジをしやすい環境だと思っています。この環境を資源としてとらえて、ここで自分のやりたいことをかなえていきたいです！（松浦さん）

共

京都出身

鳥取出身（右）

公立鳥取環境大学の  
修士課程2年生です！

僕たちは、用瀬に「課題」よりも「可能性」を感じています。地域の方が、僕たち学生を応援してくださり、ウエルカムな雰囲気です。常に迎えてくださいます。僕たちにとっても、とても気づきになる暮らしが用瀬にはあって、そのこと自体がこのまちの可能性だと感じています。（岩田さん）

「ただいま」といえるまちを創る！

## もちがせ週末住人

同世代の仲間をつなぎ、用瀬の地域住民と一緒に「ただいま」といえるまちを自分たちの手で創るチャレンジを続ける「もちがせ週末住人」。  
活動について、共同代表の岩田直樹さんと松浦生さんのお二人にお話を伺いました。

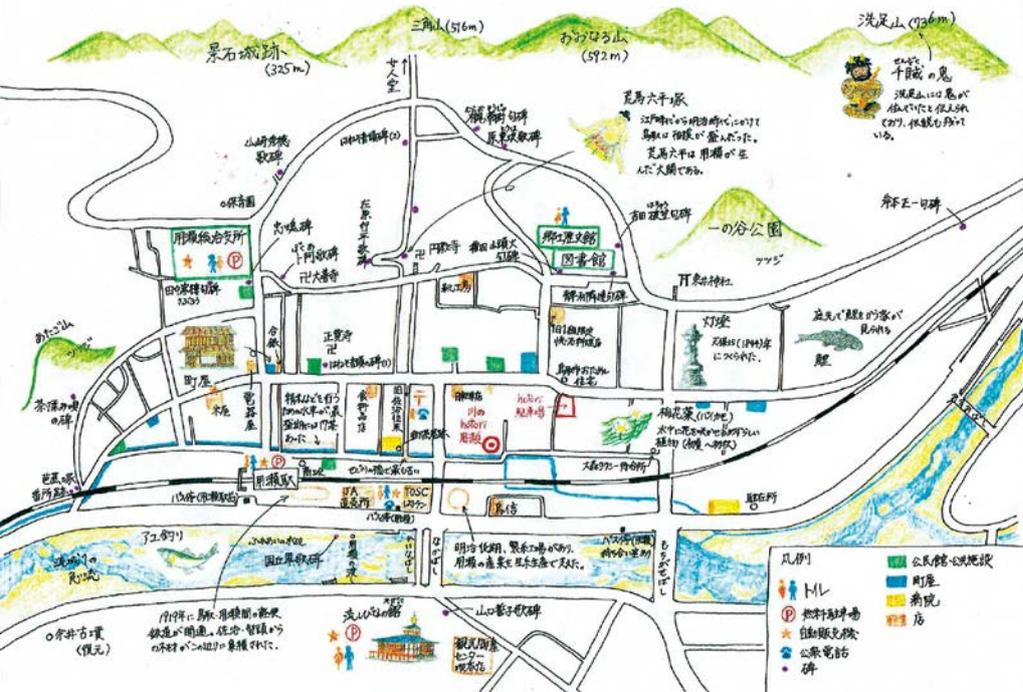
### 大学生でもなにかできるはず！

平成27年、公立鳥取環境大学（以下、「環境大学」という）一年生のときに、「起業部」というサークルを立ち上げ、鳥取市で中心市街地の活性化に関わっていた岩田さん。大学で学んだことを活かして、「鳥取」というフィールドで挑戦し続ける中、活動に興味を持った用瀬の方に、「用瀬でも挑戦してみないか」と声をかけられました。「なにもしなかったら衰退していくばかり。10年後に向けたまちづくりをしていきたい」という言葉に共感し、「僕たち大学生の力でも、きっとなにかできるはず！」と、用瀬のまちに興味を持ちました。

平成27年の冬に初めて用瀬を訪れ、まちを見てまちの人と話す中で、この地に可能性を感じたといいます。「用瀬は、川がとてもきれいだと思いましたね。最初に景色に魅かれたというか。それから、用瀬の人の温かさに触れ、この地域に関わり続けたいと思いました」と振り返ります。そして、同じ起業部の部員だった松浦さんを誘い、用瀬で活動をすることに決めました。

### よそ者としてではなく、まちの一員として

「僕たちは、外部の人間としてまちに協力するということに違和感を持っていて」と話す岩田さんと松浦さん。自分たちを「週末住人」と名乗り、大学に通いながら週末だけ用瀬に住んで、三角山山頂で宮司さんが一泊する行事を手伝ったり、納涼祭で子ども向けの出店を企画したり、流し雛づくりや鯉のぼり流しなど、まちの一員として地域の行事を手伝う活動をはじめました。「用瀬の方は、お正月の門松やお盆の精霊流しの舟など、全部自分たちで作ります。僕たちだと何でも買ってくるのが当たり前になっているけれど、そうやって自分たちで作る力を持っているのはすごい！」と感心します。また、「おばあちゃんやおじいちゃんたちがとても元気で、いきいきとしている姿を見て、こんな風に暮らしたら幸せだろうなって思えて」とほほ笑みます。



手づくりのマップは、「もちがせ週末住人の家」と古民家カフェ「川の hotori 用瀬」の二カ所に掲示されています。



空き家を利用した一日限定の駄菓子屋



学生と地域の方で体験メニューを考えるワークショップ

## 「週末なべ部」におじゃましました

月に一回「もちがせ週末住人の家」で開催される「週末なべ部」地域住民と大学生、県内の社会人などが鍋を囲んで交流します。「用瀬が好きの人」「まちづくりに関心のある人」などだれでも参加が可能。

### 「週末なべ部」に参加されていた地域の松本典征さん

近所は年寄りばかりで、道を歩く人もほとんどいなかったのが、こうやって若い人が歩いていると用瀬のまちが活気づいているなと思います。用瀬はなんにもないところだけど、都会から来た若い人が、「空気がおいしい」「静かがいい」「川の水がきれい」と言って帰るから「そうなのかな」と思っているところです。今まで来た人が喜んで帰っていく姿を見て、自分たちは微力ながらもお手伝いをしたいと思いついて関わっています。外から来た人の視点で用瀬のいいところが再発見できるし、学生さんたちからも元気をもらっています。

## みんなで体験メニューを考えたい

「週末住人」を始めたころは、地元でまち歩きガイドボランティアをしている方に案内してもらい、用瀬の歴史や行事、文化、自然、暮らしなどについて環境大学の学生と一緒にまちを歩き、学生の視点で用瀬の情報を集めて、最終的にマップを作りました。

大学三年生の夏休みからは、完全に用瀬に移住。地域の空き家を改装し、「もちがせ週末住人の家」と名付け、体験型民泊を営んでいます。移住後は、ドローンの操作体験や一品持ち寄りでもちの人と交流したりするイベントも企画してきました。移住した年の冬には、民泊でどんな体験ができるか、どんな体験がしたいかをテーマにワークショップを開き、地域の方と学生みんなでアイデアを出し合いました。でてきたアイデアの中から、農業体験や空き家を利用した一日限定の駄菓子屋、地域の方と登山をしてフユイチゴを採り、持ち帰ってジャムづくりをするなどの企画を実際に実現してきました。また、地域の方と学生が交流する「週末なべ部」も月一回開催しています。「僕たちは、用瀬のまちづくりをしているというよりも、同世代の学生たちとまちの方の両方がワクワクする状態をつくっていくことを目指しています。その結果、用瀬がおもしろい場所の一つになっているぐらいがちょうどいいと思っています」と話します。

さらに、「もちがせ週末住人の家」は、総務省の「ふるさ

とワーキングホリデー」の受け入れ先にもなっていて、県外からたくさんの学生が長期間滞在し、用瀬の暮らしを体験しながらまちの人と交流を深めます。ワーキングホリデーで用瀬に来て、二週間以上滞在した県外の学生は、半数以上がリピーターとなって用瀬を訪れます。「このまちを離れてもまた遊びに来てくれて、そのことを楽しみに待っている地域の方が増えていくような、そんな将来を創っていきたい」と、年に一度同窓会も開いています。

## 「関係人口」という考え方

活動を続けてきて三年が経過。一緒に活動に携わってきた学生たちと話し合い、意見を共有し、活動の目的や方向性をさらによいものにしようとしている最中です。「僕たちが大学を卒業しても、現役の学生たちが、『もちがせ週末住人の家』に継続的に関わることができるような仕組みを模索中です」と、今後の展開を考えます。

「関係人口という考え方は僕たちの活動と似ている概念だと思っています。人口は確実に減っていく中で、必ずしも定住するのではなく、このまちに想いがあるって応援したいと思う人を増やしていけたら」と話す岩田さん。用瀬のファンを一人でも増やし、「帰ってきたくなる田舎」「ただいま」と言えるまち、「おかえり」と言ってもらえるまちにすることを目指し、日々活動を展開中です。

「今年は何か  
結果を出したい!」  
と参加

はしもと ゆうすけ  
橋本 友輔 さん  
(愛知県出身)

20日間滞在

今までいろいろなことにチャレンジしても、結果を出せなかったのが、今年は何か結果を出したいと思って参加しました。具体的には、地域の方に、20代のときに用瀬でどういう暮らしでどういう暮らしをしていたのかインタビューして、「過去の自分へのメッセージ」としてまとめてみたいですね。

瓦屋根が新鮮!

かみはら こ まい  
上原子 真衣 さん  
(北海道出身)

14日間滞在

瓦屋根の家をあまり見たことがなくて。観光地化されていない地域の町並みがとても素敵だなと思いました。古民家カフェにも行ってみました。地域の方はみんな寛容で、突然来た私たち学生を受け入れてくださいます。自然がきれいで町並みが好きです。

## ふるさとワーキングホリデーに 参加中の学生にも 話を聞くことができました

同じ趣味の  
県外の学生と  
知り合いに!

なかむら けん たろう  
中村 健太郎 さん  
(東京都出身)

取材当日、遊びに来ていた県内の学生さん

自分は鳥取大学の学生で、ワーキングホリデーに参加していませんが、遊びに来ました。ラップの音楽活動をしています。ここに来て、音楽活動が趣味の橋本さんと知り合いになることができました。

心がもう少し  
豊かになるのかな

おりはら かな  
折原 佳奈 さん  
(兵庫県出身)

20日間滞在

都会生まれ都会育ちです。物質的に便利な場所に住んでいて、いろんなものに囲まれて生きているのは乏しいというか、もっと幸せな環境があるのではないかと思って。田舎とか長い間滞在したらどう感じるようになるだろう。心がもう少し豊かになるのかなと思って来ました。

## ふるさとワーキングホリデー

事前にオンラインで面談をして、どうして用瀬のことを知ったのか、大学では何を学んでいるのか、用瀬でしたいことなどを伺います。

週末住人がワーキングホリデー参加者に体験してもらいたいことは、次の3つです!

- ①同世代の学生と自然と語り合い、刺激し合う共同生活を送る。
- ②用瀬の日常の暮らしから、データだけでは見えない地方のリアルを体感する。
- ③用瀬の皆さんの人と人との繋がりや、そこから生み出される行事などから、「人口減少社会の未来」のヒントとなる気づきを得る。

用瀬の日常に溶け込み、鳥取の他の地域にも足を運びながら、たくさんの方と出会い、自分の好きなこと得意なこと、学んでいることを生かした小さなチャレンジを積み重ねていってまいります! (Facebookより抜粋)



松浦さんが描いた用瀬の風景

### 連絡先 もちがせ週末住人

Facebook <https://www.facebook.com/shumatsujyunin/>  
ホームページ <http://mochigase-hitotoki.com/>  
Eメール [shumatsujyunin@gmail.com](mailto:shumatsujyunin@gmail.com)

